

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101861		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	今泉ケアセンターそよ風		
所在地	栃木県宇都宮市中今泉4-22-1		
自己評価作成日	平成23年10月25日	評価結果市町村受理日	平成24年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成23年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の残存機能を生かし、毎日の家事・入浴等、自宅での生活に近い環境が作れるよう、支援しています、
また、外出の機会を多く作るため、毎日の散歩・季節に合わせた外出レク・地域の活動への参加を積極的に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは宇都宮駅北東部の閑静な住宅地内に位置し、近くには東図書館や商業施設もある。母体法人の介護サービス基本方針・品質方針をスローガンにして、ホーム独自の理念を毎朝唱和し、意識付けをしながら実践に努めている。入居者個々の個性を尊重した支援に努め、入浴時間を就寝時間に近い時間帯にしたり、名前の呼び方にも気配りをし、尊厳やプライドにも配慮した支援に努めている。また、家族とは随時連絡や情報を取り合い、お互いにとって良好な関係が築かれている。さらに、全国展開している母体法人との連携により、運営規定や介護保険に関する情報等も入手出来る体制となっている。地域とは、良好な関係を築いており、ホームのイベントやお祭り等のお知らせを職員自ら近隣に配布し呼びかけるなど、地域に密着したホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、そよ風の基本理念を唱和し、全スタッフが念頭において日々の業務にあたっている。	法人としての基本理念、介護サービスの基本方針、品質方針をスローガンに、ホームとしては「その人らしく楽しく、ゆったりとした生活の支援、いつも笑顔を忘れず、元気に過ごしましょう」という独自の理念作成し、毎朝唱和するとともに、日々の業務においても意識づけながらケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催のイベントへの参加や、日々の散歩等で、地域の方と触れ合い、交流を持っている。	自治会に加入し、回覧板をまわすなど日頃から交流がある。また、お祭りのお知らせ等は職員の手配りにて地域に発信を行う他、保育園との交流や農園での収穫を地域の方と分けあう等、地域の一員として相互交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方への発信はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々行っているレクやがう腫つの様子・入居されている方の現状をお伝えし、ご意見や案をいただき、次へつなげている。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催し、民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員、入居者家族、入居者等の参加により、開催している。会議ではホームでの生活やレクリエーション等の様子を報告している。また、会議メンバーからは東日本大震災を教訓に協力体制が重要との提案があるなど、参加者とホームが双方向的会議となるよう配慮している。	多くの入居者家族等にも参加を促しながら家族の順番で、要望や意見を聴く事に期待したい。また、議題によっては、警察官、消防所職員等にも参加してもらい、ホームの現状報告だけではなく、更なるステップに向けた目標の実現を目指した会議になる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、連携がとれていない。	市町村の担当者との連携は取れていないが、法人内で介護保険事業や運営に関する一定の情報収集は出来ている。	法人内での連携はもちろん重要だが、市町村は介護保険の保険者であり、地域福祉の推進役として最前線の立場にある。したがってホームでの状況や実態を知ってもらい、課題解決等を図っていくためにも、今後は市町村と連携を図り、情報を共有して行く事に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの扉は、安全上施錠しているが、その他に関しては、自由に行き来できるようになっており、身体拘束排除に全員で取り組んでいる。	研修会を通して、身体拘束、言葉による精神的苦痛の排除に職員全員で取り組んでいる。名前の呼び方や、生れ育った訛り言葉で会話するなどにも配慮している。日中は玄関の施錠は行わず、職員目配りの下で支援している。	

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して、勉強できる機会がある。 入浴時や日ごろからボディチェックを行っており、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強できる機会が作れていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される前に、重要事項説明書に沿って詳細の説明・疑問なことが無いかの確認を行い、納得してご入居いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置と、直接いただいた要望・希望については、可能な限り反映させている。	家族には来所時や月に1度手紙を出すなど、意見や要望等の確認をしている。苦情については、入居開始時に重要事項説明書にて事業所の担当職員や外部の苦情受付機関にも申し出が出来る事を説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームのミーティングやセンター全体で行う会議に出席した際に、発言できる場の提供と、個人的に話ができる機会も設けている。	職員は日々の業務や会議等において、管理者へ意見や提案等をする機会が設けられている。2カ月に1回の研修会においても、勉強会のテーマを提案するなど働く意欲の向上や質の確保にも繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	明確な役割分担をし、やる気の構築を図っている。条件については、面談等により不安を取り除く努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日ごろ気づいた点は、その場で指導を行い、その他、勉強会・研修を設け、お互いに成長していけるよう努めている。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	企業内で、同じ立場のスタッフと交流できる機会がある。また、事例検討会や協議会を通じて、勉強できる機会がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅での生活と、できるだけ近い形を目指すためご家族から情報提供をいただいている。また、新たな取り組みをする場合にも、ご家族と相談をし、より良い形がとれるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来ていただいた段階から、入居を希望するに至った理由をお聞きし、入居後は要望も取り入れながら、密にご家族と連絡をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはグループホームの生活に慣れていただきその後にご本人が何を求めているかを、ご家族と相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人に受け入れていただいた後に、共に楽しみ・共感しながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力を得るためにも、良いことばかりでなく、困っていることも報告・相談しながら、情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人から要望が聞かれることはあまりないが、通院や外出をご家族にもお願いをし、関係が途切れてしまうことのないよう、努めている。	家族との馴染みの美容室や、外食等に出かけたりしている。本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を家族等から把握し、その関係が途切れないような支援に努めている。また、入居者の昔からの馴染みの知り合い等が来所することもあり、継続的な交流の支援に努めている。	

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居の時点で、どちらのユニットがご本人に合っているか、話し合った上で決定している。 普段から、ユニットを超えてコミュニケーションが図れる環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時、『何かの時には、いつでもご相談下さい。』と声かけを行っている。相談等あった場合には、必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族にも話を聞きながら、これまでの状況やこれからの希望の把握をしている。	日々の関わりの中で声かけを行い、言葉や表情等から思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族から情報を得たり、入浴時など一対一になった際の会話を通して思いを聴き入れるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際にご家族から経過をお聞きし、ご本人へは生活に慣れてきてから、話を聞くよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りで、こんな事もできた・体調の変化について話し合い、全員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフの気付き、面会時のご家族の意見を取り入れ、担当者会議を経て作成している。	本人の生活能力や身体状況、本人・家族の意向等を踏まえ、担当職員と協議しながら介護計画を作成している。概ね3ヵ月～6ヵ月に見直しを行い、定期的にモニタリングや計画の達成状況を確認している。また、状態に応じた臨機応変な見直しも行い、家族に説明及び承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、日々詳細に記入し、申し送り等で情報を共有しながら行っている。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が変化した時には、必ずご家族と相談し、出来る限り柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はできていない。その人らしい生活が出来るよう、必要としていることを見出しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はこれまで通りのかかりつけ医にご家族対応・往診にて行い、緊急時には、必要に応じてスタッフも関わりを持つ対応をしている。	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援しており、受診時の付き添いは家族等にお願いしている。緊急時には必要に応じて職員も対応をしている。受診結果に関する情報の共有に努めた支援をしている。歯科は往診に来てもらっているが、眼科は家族の支援にて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	別サービスの看護師と協力しながら、異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換・相談に応じ、退院決定時には早期に対応できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	共同生活が困難になってきた場合・重度化してきた場合、出来る限りの対応を行い、尚且つ、必要に応じて関係者と連携がとれるよう、支援している。	入居時、家族には重度化した場合の対応について説明をしている。かかりつけ医との連携を図り、入居者の状態に応じて随時相談をし、終末期への対応に努めている。ホームとしてのリスクを考えながら、ホームでの生活が出来ると継続出来るようチームでの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応方法についてのマニュアルはあるが、実際の訓練には至っておらず、実践力に差がある。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の対応については、事業所内に対応方法の掲示をしている。消防訓練を通じて、避難方法の確認はしているが、推進委員の方以外に協力体制はとれていない。	年2回の消防訓練と夜間想定した訓練を実施している。食料等の備蓄も完備している。	職員のみ誘導には限界もあることから、地域住民の協力を得ることを目的に、日頃から話し合いを行ったり、チラシ等による呼びかけをするなどして、消防訓練等への参加も含めた協力関係の構築に今後期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧過ぎず、また、友達言葉にならないよう注意し、個々に合った声かけをしている。	常に年長者として敬意を払い、入居者の尊厳を無視せず、目立たずさりげない言葉かけをしている。また、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制的に何かをしてしまうのではなく、『しましようか？』『どうですか？』の声かけを実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れが入居者様のなかでもパターン化しているため、決まった流れで過ごしていただくことが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日同じような衣服にならないよう、またパジャマのままリビングに居ないように、声かけ・確認を行いながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や下膳、食器洗い・食器拭きを行っていただいている。	食材は職員と入居者が1日おきに買い出しに行っている。また、食事の後片付けを職員と入居者が一緒に行っている姿が見受けられた。職員の勤務時間の関係で一緒に食事を取ることはないが、職員は入居者を暖かく見守り支援している。近隣の飲食店に外食に出掛ける事もあり、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は、毎食チェックを行っている。水分が摂取しにくい方には、ポカリ等の甘い水分をお出ししたり、嚥下が困難な場合には、とろみ入りの水分に変更したりしている。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自己にて行う方・セッティングが必要な方・介助が必要な方、それぞれに合わせて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ・パットの使用は極力避け、日中・夜間とも時間でのトイレ声かけ・誘導により自立に向けた取り組みを行っている。	入居者の生活リズムに沿った声かけや誘導を行っている。オムツやパットの使用を極力避け、可能な限りトイレにて気持ちのよい排泄が出来るよう自立に向けた支援をしている。また、失禁時においてもプライドや他の入居者に気付かれないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物については、ご家族と相談のもと決定している。外へ散歩に出かける・室内での体操へ参加をしていただきながら、予防の努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調不良等がなければ、基本的に毎日でも入浴していただける支援をしている。時間については、出来る限り就寝時間に近い時間に！を基本とし、夕方に行っている。	入浴は基本的に毎日可能であるが、体調の変化等も考慮し無理強いをする事なく、入居者の意向を第一に入浴出来るよう支援している。また、就寝時間に近い午後4時位から入浴時間としている。さらに、入浴が入居者にとって本音を言いやすい場となるように、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に車椅子の方は、食後声かけし休息をとっていただいている。夜間については、就寝時間を特には決めておらず、その日その日で確認を行いながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書は個々にお預かり・ファイリングし、特に排便については内服薬の調整をご家族と確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々行う食事や洗濯・掃除に係わることは、役割を決め、行っていただいている。また、レクリエーションの時間を設け、歌を歌う・体を動かす・ゲームを行う等、支援している。		

今泉ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に外へ散歩に出かけるのが日課だが、個々に外出できる体制はできていない。	天候に応じて車を利用した全員での外出や小人数での買い物等を行っており、希望を取り入れながら外出を楽しむ支援をしている。また、近隣への散歩、家族との新年会、夏祭りや食事会等を開催し、入居者の意欲や自立を保つ支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解は十分にしているが、トラブル防止のため、個々のお小遣いを事務所にてお預かりしている状況。週に1度、ヤクルト販売の時や、買い物に出た際に好きなものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、事務所の電話を使用し、ご家族にお電話をされている。手紙のやり取りについては、現在は行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく落ち着いた空間であり、自宅に近い色使いになっている。また、掲示物や季節の植物を置いて、季節感を出している。	共有空間は色使いが配慮され、季節の植物や花、掲示物等が置かれている。リビング内はテーブル席とTVを見ながら寛げるソファが置かれており、その他に一人になれる空間・場所等が設けられている。空調も適切に管理されている。入居者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内には、テーブルの席と、TVを見ながらゆったりと過ごせる空間があり、食事時以外は自由に過ごしていただけるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、出来る限り自宅で使用していた物を持参していただいている。中には、仏壇を持参し、安心を図っている方もいる。	安心して過ごせるプライベートな空間として、入居の際に自宅で使用していた仏壇や家具類を持ち込み、入居者好みの部屋となっている。また、認知度に応じて、危険度に配慮した居室づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除、洗濯干し・たみ、食事の準備・片付け等個人の残存機能を存分に生かしていただけるようその都度声かけし、実践していただいている。		